

自ら学び、他と協働して課題を解決する生徒の育成

《令和3年度前期との比較》

※評価方法は裏面に記載

＜視点1＞【子供たちが安全・安心に学べる学校】								
中間・取組の重点…目標数値・改善策(●)	アンケート結果(赤字…着目した数値)				自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
課題① 生徒の主体的活動 【目標数値:生徒「自分にはよいところがある」90%】 ■生徒の主体的活動への改善 ・生徒会活動や学校行事で、生徒の活躍の場の充実を図る。 ・生徒自らが関わり、「できた」「やれた」が感じられるようにする。 (友達同士が評価をする場面の設定・自己肯定感を育むGWTやSGE等の活用)	生徒	学校は楽しい。	92%	➡	a	4	○生徒:「学校は楽しい」・「困っている友だちを助けてあげようとしている」と回答する割合は高い。 △生徒:「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合は、目標を達成することができなかった。 →認められる場、活躍する場を設定してきたが、まだまだ不十分ではないか。 ○ほとんどの生徒は学校のきまりを守っている。 →生徒会としてABCD(当たり前を・ばかにせず・ちゃんと・できる)を掲げた効果ではないか。 ○保護者:「学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいる。」と感じている。 →現在の取組を継続する。 ○教員:定期的に危機管理マニュアルを読んで確認している。 →事前の危機管理意識が向上しているのではないか。	生徒が活躍する場面 ■生徒が生徒会活動や学校行事で認められる場、「できた」「やれた」が感じられる場の充実を図る。 +教員は、生徒の活躍を認める言葉がけをする。
	保護者	お父さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思いますか。	98%	➡	a	4		
	生徒	困っている友だちがいたら、助けてあげようとしている。	95%	➡	a	4		
	生徒	自分にはよいところがある。	79%	➡	c	2		
	保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしていると思いますか。	95%	➡	a	4		
	生徒	学校のきまりを守って、生活している。	98%	➡	a	4		
	教員	生徒が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	100%	➡	a	4		
	生徒	みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	92%	➡	a	4		
	保護者	学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。	92%	➡	a	4		
	保護者	先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると思いますか。	95%	➡	a	4		
	教員	生徒同士のよりよい人間関係づくり(いじめ・不登校の未然防止)に努めている。	100%	➡	a	4		
	教員	生徒の小さな変化に気づいたときは、すぐ行動している。	100%	➡	a	4		
	保護者	学校は、生徒の安全を守るために努力していると思いますか。	94%	➡	a	4		
教員	定期的に危機管理マニュアルを読んで、確認している。	82%	⬆	b	3			

3.8

【課題①】生徒の活躍場面
 <改善策>
 ○生徒の活躍の場の充実
 ○生徒を認める言葉がけ

＜視点2＞【生徒の確かな学びを保障する学校】								
中間・取組の重点…目標数値・改善策(●)	アンケート結果(赤字…着目した数値)				自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
【課題②】学力向上 【目標数値:保護者「お父さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じていますか。」80%】 ■学力向上への取組改善 ・生徒に説明・対話させる授業に向けた取組を改善し共通実践する。 ・補充的・発展的指導の具体的な取組内容を共有し、取組をすすめる。 ・GIGAスクール構想の実現に向け、授業でタブレットの積極的な活用をすすめる。 【課題③】家庭学習 【目標数値:生徒「毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。」70%】 【目標数値:保護者「お父さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか。」70%】 ■家庭学習の見直し ・現在の取組の不十分さの原因を明らかにし、具体的な改善策を共通実践する。 【課題④】ネット利用の仕方 【目標数値:保護者「お父さんと、インターネットの使用についてのルールを決めていますか。」90%】 ■ネット利用のルールづくり ・生徒:長時間のネット使用による弊害を学ぶ機会を増やす。 ・保護者:家庭でのネット利用のルールを決めてもらえるよう取組をすすめる。	生徒	授業の内容がよくわかる。	79%	➡	c	2	○教員:数値は向上している。 △生徒・保護者:「授業の内容がよくわかる。」と回答する割合が伸び悩んでいる。 →教員の取組に不十分さはないのか。 ○生徒:「毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。」割合が半数以上になった。 △生徒:「5定点を守った生活習慣ができていない生徒の割合が減った。」 △保護者:「お父さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じている。」割合が約半数以下で低迷している。 →家庭学習の習慣化ができていない理由、メディア使用の現状をつかみ、全学年での指導が必要ではないか。 ○保護者に、ネット利用・各家庭でのルールを一緒に考えてもらうよう呼びかけ、意識を高めることができた。 △一方で、ネット利用の時間等に改善が見られない。 →生徒にとって、メディアの利用時間が増えることに問題意識がないのではないか。	よく分かる授業への改善 ■学校研究で、「生徒に説明させる」授業への取組を継続する。 ・授業等での発展的・補充的学習に、全教科で工夫して取り組む。 家庭生活の見直し (1)家庭学習 ■なぜ学習するのか、なぜ家庭学習が必要かを全学年で指導する。 ・家庭学習課題を提出しなかった生徒への対応を共通行動にする。 (2)5定点を守った生活 ■睡眠時間の確保するため、5定点を守る大切さを指導する。 メディア使用のきまり ■メディア使用・わが家のきまりについて交流させ、なぜメディア使用のきまりが必要なのかを全学年で指導する。
	生徒	失敗してもあきらめずに、粘り強く取り組もうとしている。	82%	➡	b	3		
	保護者	お父さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じていますか。	68%	➡	d	1		
	教員	個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている。	89%	⬆	b	3		
	生徒	分かりやすい授業となるよう、ICT機器(モニター・タブレット等)を積極的に活用している。	100%	⬆	a	4		
	生徒	授業では、学び合い(対話)によって、自分の考えが深まっている。	91%	➡	a	4		
	教員	言語活動を重視し、生徒に説明・対話させる授業への改善をすすめている。	78%	➡	c	2		
	生徒	毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。(1年60分、2年70分、3年80分)	56%	⬆	d	1		
	保護者	お父さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか。	48%	➡	d	1		
	教員	普段の家庭学習の量や質が改善するように指導している。	88%	➡	b	2		
	生徒	五定点を守って生活している。(起床・朝食・夕食・就寝の時刻)	62%	⬆	d	1		
	保護者	お父さんは、早寝・早起きをしていますか。	48%	➡	d	1		
	教員	五定点を守った生活となるよう指導している。(起床・朝食・夕食・就寝の時刻)	89%	➡	b	3		
生徒	家で、インターネットは1日にどれくらい使っていますか。(A:30分未満 B:30分~1時間未満 C:1時間~2時間未満 D:2時間以上)	33%	➡	d	1			
保護者	お父さんと、インターネットの使用についてのルールを決めていますか。	79%	➡	c	2			
教員	ネット利用のきまりを守るよう指導している。	88%	⬆	b	3			
生徒	先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	94%	➡	a	4			
保護者	お父さんと、ご家庭で勉強や進路のことを話しますか。	80%	➡	b	3			

【課題②】授業改善
 <改善策>
 ○生徒に説明させる授業への改善
 ○発展的・補充的指導

【課題③】家庭生活改善
 <改善策>
 ○家庭学習の見直し
 ○5定点を守った生活

【課題④】メディア使用
 <改善策>
 ○わが家のきまりを守る

＜視点3＞【職員が協働し高めあい確かな指導力を育成する学校】

中間・取組の重点…目標数値・改善策(●)	アンケート結果(赤字…着目した数値)				自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
【課題⑤】業務の平準化 【目標数値:教員「業務の効率化をすすめ、午後8時までに退校している。」100%】 ■業務の平準化 ・午後8時までに退校できない原因を共有し、業務の平準化に向けた具体的な対応をすすめる。	教員	本校の教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。	100%	➡ a	4	B ↓ B	○午後8時までに退校しようとしている。 △「業務の効率化をすすめ、午後8時までに退校している。」教員の割合100%を達成できなかった。 △自ら教師としての力量が高まるよう努めている割合が減少している。 →業務の効率化がすすまず、自ら教師としての力量が高まりを感じていない職員がいるのではないかと。	業務の効率化 ■改めて最終退校時刻等の時間を守る行動から徹底して取り組む。
	教員	PDCAサイクルを回した業務となるように努めている。	82%	➡ b	3			
	教員	自ら教師としての力量が高まるよう努めている。	80%	↓ b	3			
	教員	業務の効率化をすすめ、午後8時までに退校している。	73%	↗ c	2			

3.0

＜視点4＞【地域社会の一員として信頼される学校】

中間・取組の重点…目標数値・改善策(●)	アンケート結果(赤字…着目した数値)				自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
【課題⑥】地域体験活動 【目標数値:生徒「地域の人・もの・ことから、いろいろなことを学んでいる」90%】 【目標数値:教員「まちの先生を積極的に活用している」100%】 ■まちの先生の活用 ・海洋教育等、2学期以降の計画を見直し、まちの先生を活用した取組をすすめる。	生徒	地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	97%	↗ a	4	C ↓ B	○生徒は、来後者に対しても進んであいさつをしようとしている。 ○職業講話や感染症対策、プログラミング学習の講師など地域の方を講師とした授業を行うことができた。 →地域人材をリストアップし、まとめておくとよい。 ○欠席者への電話連絡など、保護者との連絡は密にしている。 ○ホームページでは日常的な更新に努めている。	(Blank)
	保護者	お父さんは、すすんで挨拶ができていますか。	89%	↗ b	3			
	生徒	地域の人・もの・ことから、いろいろなことを学んでいる。	76%	➡ c	2			
		地域の行事には進んで参加している。	58%	↗ d	1			
	保護者	お父さんは、地域のよさや大切さを感じていますか。	85%	➡ b	3			
		学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると思いますか。	89%	➡ b	3			
	教員	まちの先生を積極的に活用している。	82%	↗ b	3			
	保護者	学校は、保護者との連絡を密にしていると思いますか。	88%	➡ b	3			
		学校からの各種便りやホームページでの情報発信は、十分ですか。	98%	➡ a	4			
	教員	地域・保護者へ、積極的に情報発信を行っている。	91%	↗ a	4			

3.0

【課題⑤】業務の効率化
 <改善策>
 ○時間のルールを守る
 ・最終退校時刻(19時半)
 ・定時退校日

＜アンケート集計から自己評価までの流れ＞

- アンケート結果から、それぞれの項目をa~dの4段階に評価する
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が90%以上 ⇒a
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が80%以上 ⇒b
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%以上 ⇒c
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%未満 ⇒d
- ①の4段階の評価を、a=4 b=3 c=2 d=1とし、平均を出す
- 以下の基準で平均値から自己評価を行う
 平均が3.5以上 ⇒A
 平均が3.0~3.4 ⇒B
 平均が2.3~2.9 ⇒C
 平均が2.3未満 ⇒D

↗ 5%以上増えている ↘ 5%以上減っている
 ↗ 10%以上増えている ↘ 10%以上減っている ※令和3年度前期との比較

【保護者から】

- ・いじめについては、いじめを受けている子供を守るシステムはできていると思う。しかし、いじめと気付かず平気でいる子供たちに対する指導の工夫や対応がされていないと思う。「気付いていない」ことは一番大変なことだと思う。難しいことではあるけれど、中には楽しんでいる子供もいるのではないかと。(1年)
- ・子どものことで心配事があった時に、担任の先生・部活の顧問の先生に相談したところ、親身になって丁寧に対応して下さったこと、子どものことをよく見てお伝えして下さったことに感謝しております。(2年)
- ・家では学校のことをよく話してくれています。学習も少しずつですが理解しております。ありがとうございます。(2年)
- ・保護者の送迎が当たり前のようになっています。自転車通学が基本かもしれませんが、夕方暗い中女の子が自転車で帰ることは大変危険だと思います。義務教育であれば、スクールバスなどを出してほしいと思います。町や学校の考えを教えてください。(2年)
- ・教室横の廊下に雑巾を干してあるのが、以前から気になっています。郊外からのお客様を迎える時など、通行する場所に干してあるのはどうかと思います。(3年)
- ・コロナ禍が過ぎ去り、課外体験や親子参加型授業など多くの体験ができるようになるといいなと思います。もっと生徒会の活動を保護者が知る機会があれば良いと思います。(3年)